

gooddays

Vol. **3**

around KANDA NISHIKI - CHO
New Culture & Alternative Lifestyle

2016 WINTER ISSUE
PRICE 0 YEN

CREATIVE WORKER,
ONE AFTER ANOTHER.



around KANDA NISHIKI - CHO

Special Issue

03

Winter '16

*Creative Worker,
One After Another.*

神田錦町界隈、この街で働きたい理由。

TEXT・Taichi Ueda / PHOTO・Koji Tsuchiya

「トレンドに上書きされない、歴史や記憶との連なりがこの街にはずっと残っている。今の自分の感覚にぴったりきた」。長きに亘って業界の第一線で活躍してきたデザイナーは、拠点を渋谷から神田錦町界隈に移転させた理由をそう語る。

少し前まで、このエリアで働く人といえば決まって出版関係の仕事に就いている人が多かった。しかし最近では、この街固有の雰囲気やカルチャーに吸い寄せられるように、多種多様なワーカーが集まってきている。

古い空きビルの一室をオフィスとギャラリーに改装したデザイナー集団。雑多な飲食店街を日々のマーケティングに活かす飲料メーカー。皇居の緑と高層ビル群を一望しながら戦略を立てるコンサルタント等々。

彼らに共通しているのは、アイデアを絞り、無から有を生み出す仕事を中心としていること。そしてどうやら、限られた事務所だけでなく、街全体を働く空間として捉えているということだ。

今回の特集では、そんなワーカー達にスポットを当てる。このエリアを仕事の拠点とする各界のキーパーソンを取材し、神田錦町界隈の働く街としての魅力とその可能性を探ってみた。



GOOD DAYS STORY
Vol.

05

Message from
Naoki Sato



神田や日本橋、人形町といった東京の東側に注目し始めたのは2002年ぐらいからでしょうか。湾岸地域の開発が進み始めた頃で、東側に空き物件が増えてきたため街を盛り上げるために何かできないか、という相談を受けたのです。そこで「TDB-CE (東京デザイナーズブロック・セントラルイースト)」を2003年にスタートしました。空きビルを利用して街全体をギャラリー化するデザインイベントで、後に「CET (セントラルイースト東京)」になり、年々盛り上がるようになっていきました。

もともと神田錦町界隈は通っていた美学学校や、一世を風靡した漫画雑誌「ガロ」の編集部があって、20代の頃はよく来ていたのですが、仕事を始めてからは足が遠のいていました。音楽やファッションのクライアントは渋谷や青山に多く、情報源の近くにいる必要性を感じていましたが、インターネットの普及で情報がフラットになり、その状況もずいぶん変わってきたと思います。CETを始めたこともあり、2007年に渋谷から馬喰町にオフィスを移転し、2012年からは神田を中心とした

昔から変わらない古本屋街や路地裏の良さを残しつつ
新しいものが重なっていく、
この街ならではの面白さがあります

「トランスアーツトーキョー」に携わるようになり、また神田錦町界隈に来るようになりました。

オフィスがあるのは、新しいビルの合間にぼつんと残された建物です。2階と3階を使って、撮影スタジオとギャラリーの運営も始めました。周辺には古本屋街が変わらず残っていて、新しいビルが増えても昔ながらの街の雰囲気の流れが流さずうまく融合していくのが良いですね。流行り廃りが巡る中で、過去をきちんと掘り起こせる文化が根付いているのは、仕事をする上でもありがたいです。神田錦町に移転してきてまだ1年足らずですが、今の自分にとってすごく良い場所だと感じています。

オフィスが面している五十通りには、空き部屋のある古いビルがいくつかあって、少しずつですがモノ作りや情報発信をする方たちが移って来ています。神田錦町界隈はこれから面白くなっていく、そんな予感がしています。これからも街の流れが変わるのを一緒に盛り上げていきたいと思っています。

佐藤直樹 Naoki Sato
アートディレクター Asyl代表

1961年東京生まれ。1994年『WIRED (ワイアード) 日本版』のアートディレクターとして創刊から参加。1998年にASYL DESIGN (株式会社アジュール・デザイン) 設立。2003年より「CET (Central East Tokyo) エリア」を活性化する活動を開始。2010年にオープンしたアートセンター「3331 Arts Chiyoda (アーツ千代田3331)」ではデザインディレクターを務める。2015年に千代田区神田錦町にオフィスを移転し、撮影スタジオとギャラリーを併設し、新たなオルタナティブスペースSOBO (ソーボ) の運営を行う。



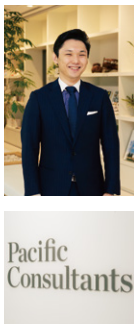
* 神田錦町界隈で *

“はたらく”

around
Kanda Nishiki-Cho
WORK STYLE



まちづくりのプロが集まる
建設コンサルト業界のバイオニア



Pacific Consultants
Producing The Future™

01 WORK STYLE

パシフィックコンサルタンツ株式会社

交通の便や周辺環境だけでなく、 景観の美しさも重要



海外では一般的だが日本ではまだ馴染みのない建設コンサルタント業。道路や駅、空港といった社会インフラ施設の調査・設計や防災、都市計画といった社会サービスの提供などを行う、いわばまちづくりの根幹を支える重要な役割を担っている。パシフィックコンサルタンツは60年以上もの歴史を持つ建設コンサルタント業界のバイオニアだ。神田錦町に移転してきたのは2015年。移転にあたり、エリア選びやオフィス空間のデザインにはこだわり抜いたという。移転プロジェクトを担当した経営企画部の鈴木崇之さんにお話を伺った。

「移転先の候補はいくつかあったのですが、交通の便や周辺環境のほか、地盤が良好でBCP*機能が高いことなどを考慮して神田錦町を選びました。弊社創立の地である

千代田区であること、国内外の様々なお客様と仕事をしていく上で、この景観(皇居が一望!)は魅力的でした。洗練されたオフィス空間にも企業としての「信念」が込められているという。「デスクや椅子、照明や植栽に至るまで、用途やシーンを細かくイメージして変化をつけています。企業として新しいステージに挑戦していく重要なタイミングであるため、社内でもこれまで以上に自由な交流ができるようオープンな空間にしています。このあたりは飲食店が充実していて、ランチマップなどを作って共有している部署もあるようです」。企業のブランディングにとって、場所選びと空間づくりは重要な要素になりそうだ。

*BCP(Business Continuity Plan)
大災害や重大事故など事業に支障を来す悪影響を最小化し、事業の中断を防ぐための考え方

02 WORK STYLE

株式会社 ziba Tokyo

文化の香る街を歩いて得た 気付きがアイデアソース

z i b a t o k y o

zibaは1984年にアメリカ・ポートランドで創立し、ミュンヘン(ドイツ)、東京とグローバルに展開するデザインコンサルティング会社だ。今年で創立10年目を迎えるziba tokyoでは、単にクライアントのニーズを満たすだけではなく、独自の手法でマーケットリサーチを行いクライアントと一緒に課題を発見し、アウトプットに落とし込むという広義の“デザイン”を提供している。

代表の平田智彦さんは神田錦町界隈を散策するとき、「おもしろきこともなき世をおもしろくすみなすものはこころなりけり」と、敬愛する高杉晋作の想いに浸りながら歴史を重ね合わせているという。「歴史を感じる街並みだけではありません。消費者目線でのマーケットリサーチは街歩きによるトレンド

把握が基本。このあたりは徒歩圏内に丸の内や神田、秋葉原といった多様な街があるから面白いですね。それに、古本屋やカレーの店だけでなく、本屋の上で落語会が開かれるなどエンターテインメントも充実しています。会社としても、もっと人がこの街に来る仕掛けを作って活性化していきたいです。最近では週末にオフィスを解放し多目的に利用するなど、エリア活性につなげる試みを行っているという。「以前ノルウェーの大学から依頼を受けて一緒に街歩きをしました。2020年の東京オリンピックに向けて神田エリアの価値を再発見するフィールドワークを行いました。グローバルな目線で地域を見つめなおし、神田エリアが活性化することで、改めて“東京”を世界にアピールしたいです」。



グローバルな視点で、
プロジェクトから世の中の仕組みや
サービスまでデザインする



03
WORK
STYLE

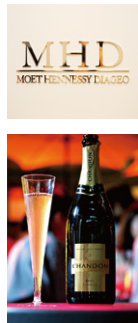
MHD モエ ヘネシー ディアジオ株式会社

街のリアルな声が
マーケティングの強みになる

ドンペリニオンやモエ・エ・シャンドンといった名だたる高級洋酒を取り扱う外資系企業が神田神保町にあるをご存知だろうか。MHD モエ ヘネシー ディアジオ株式会社は、世界の高級ブランドを牽引するLVMHグループの1つなのだが、グループ内で唯一神田錦町界隈にオフィスを構えていることに魅力を感じているのだという。マーケティングマネジャーの森田亜矢子さんがその理由を語ってくれた。

「私たちが取り扱う高級洋酒を日本で展開していくにあたり、マーケットリサーチが非常に重要になります。高級レストランはもちろんですが、バルやカフェダイニングといったカジュアルレストランから昔ながらの居酒屋まで幅広くリサーチすることで、

新たなマーケットの開拓に繋がります。そういう意味では神田錦町界隈にはあらゆるタイプの飲食店があり、新しいお店も増え続けているので、お客様のリアルな反応を感じるにはとても便利な場所なのです。最近では周辺の飲食店とコラボレーションしたイベントへの協賛も始めたそう。「10月に行われたスパークリングナイト錦町に協賛させていただきました。多種多様な飲食店の方々と連携することでより飲食業界を盛り上げたいという狙いと、地域ぐるみのイベントで神田錦町界隈を賑やかにしたいという想いが込められています。企業にも街にもうれしい新たな地域活性化は、今後も継続して続けていくという。これからの展開が楽しみです。」



ローカルマーケティングを徹底する高級洋酒のリーディングカンパニー



MHD
MOËT HENNESSY DIAGEO



学校や出版社が集まる街に
根付いた紙の専門商社

04
WORK
STYLE

株式会社竹尾

住民感覚のある街だからできる、
地域に根ざした働き方



創業116年という長い歴史を持つ株式会社竹尾は老舗の紙の専門商社で、1907年に京橋から神田錦町に移ってきた、神田錦町界隈の歴史とともにある企業の1つだ。竹尾では色彩豊かで上質な紙「ファインペーパー」を開発。国内だけでなく海外にも供給を行っており、神田錦町にある本社はその中枢を担っている。

「かつてこのあたりには大学などの教育機関がたくさんあって、出版社を中心に印刷会社や製本会社が集まっていた。特に神田錦町は問屋街という印象がありましたね」と語るのは、5代目にあたる現・代表取締役の竹尾綱さんだ。厚みや風合いの違いで表情が細かく変わる紙は、デザインとかけ合わせることで、表現の幅をさらに広げることができる。出版社、印刷

会社、デザイナーとのやり取りを主とする業態だが、一般消費者へ門戸を開いたのは従来のショールーム兼ショップをリニューアルして「竹尾 見本帖本店」をオープンしてからだという。「一般の方が紙に触れる場を開設したことで、初めて地域の人にも理解してもらえたのかもしれない。たとえ住んでいなくても、働く場所は“自分の街”という感覚になりますよね」と竹尾さん。最近では社員を募って街の掃除をしたり、神田まつりや神保町ブックフェスティバルに参加したり、このあたりならではの交流を大事にしているという。「ここ数年で神田錦町界隈の人の流れが少しずつ変わってきたように感じます。これまでの歴史があるからこそ、街の変化と共に歩んでいきたいです」と語ってくれた。

国内外のアーティストが滞在し、制作・発表をおこなう「AIR 3331」。
そこで彼らが見たもの、感じたものとは。



" Connecting Without Words "

私たちの異文化交流プロジェクトは、オープンフォームなダンスと音楽との相互作用に様々な国のアーティストとのコラボレーションを掛け合わせ、新しい作品に仕上げることが目指しています。街を歩いていて、古いお寺や秋葉原の電気街など

相反するものが共存する風景に感銘を受けましたが、何より日本人アーティストとパフォーマンスで共演した言葉以外での交流が、日本の文化をより密に感じられる良いきっかけになったと思います。ヤン・シャカー&アンジェラ・ストエックリン(スイス)

Schedule

AIR3331

- ジャッキー・ドゥグルーン(ベルギー) / 滞在期間: 1/7(木)~3/17(木)
- ヨハン・ライマ(オランダ) / 滞在期間: 1/7(木)~3/17(木)
- リリアン・バスケス(メキシコ) / 滞在期間: 1/7(木)~3/17(木)

※スタジオ公開日やイベント情報は、3331ホームページ(residence.3331.jp)やFacebookなどで随時発信いたします。

連載
企画

錦町さんぽ

Vol.03

如月まみが案内する、神田錦町界隈の四季

文・「神田錦町 如月」女将 如月まみ 写真・土屋光司



神田錦町 如月

Kanda Nishiki-cho Kisaragi

酒場のおんな「如月まみ」が女将として立つ和食屋。如月まみが全国から選び、取り寄せた旨し酒と肴に料理人内藤が作り出す、和の味わいをお楽しみください。

東京都千代田区神田錦町 2-3-10
TEL 03-3518-2212
kandanishiki-kisaragi.jp
月~土 17:00-22:00 / 日祝 定休



第3回 老舗が魅せる、奥深き紙の世界

冷たい風が身にしみるこの季節、つい出かけるのが億劫になってしまいますが、今回は心をほっこり豊かにしてくれる紙の専門店をご紹介します。

神田錦町にある竹尾 見本帖本店は、紙にまつわるありとあらゆる情報が揃うショールームです。1階はショップになっているのですが、まばゆいほどに真っ白な空間に色のグラデーション別に紙のサンプルが並ぶ様子は圧巻の美しさ。小さい頃日記をつけていて、その日の気分で使う紙の色や種類を変えて楽しんでたのですが、色や質感、デザインが入ったものまで、こんなにも種類があるなんて！最近では紙に文字を書くことも減ってしまったのですが、紙を選ぶ楽しさが蘇りました。2階は紙にまつわる展示も随時開かれていて、紙とデザインの美しいコラボレーションを見ることができます。

便利だからと電話やメールに頼ってしまいますが、紙だから伝わる想いもありますよね。私も誰かに手紙を書きたくくなりました。



竹尾 見本帖本店

Takeo Mihoncho Honten

色や風合い、模様などを施したファインペーパーを扱う紙の専門商社「竹尾」のショールーム兼ショップ。

東京都千代田区神田錦町 3-18-3
takeo.co.jp/finder/mihoncho/
月~金 10:00-19:00 / 土日祝 定休



関山米穀店

せきやまいこくてん

NEW VENUE | Wine Bar



本格絶品タパスを自然派ワインで流し込む

蕎麦の老舗、神田錦町更科の向かいに新たにワインバーが誕生した。30年ほど続いた和食屋を改装、木を基調とした8坪の小さな空間に、この字カウンターを設えた、アットホームな雰囲気の特徴。自然派ワインを中心に300種類ほど取り揃えているワインに、スペイン料理やイタリア料理の絶品タパス(小皿料理)を楽しむことができる。



関山米穀店

東京都千代田区神田小川町3-9
AS ONE 神田小川町ビル 1F
TEL 03-5244-5446
平日・土日祝 17:00-25:00
(夜10時以降入店可) 不定休

店名は、店主の実家が茨城県の米農家であったことに由来。野菜や肉などの食材も地元である茨城県から仕入れている。特に猿島郡の「梅山豚(メイシャトン)」は、「これ以上おいしい豚肉に出会ったことはない」と惚れ込むほど。25時までオープンしているので、遅くにフラッと2軒目使いできるのもうれしい限りだ。

未来食堂

みらいしょくどう

NEW VENUE | Restaurant



“オーダーメイド”できる参加型の定食屋

元クックパッドのエンジニアという店主が、2015年9月に神田錦町界隈でオープンした定食屋。「あなたの“ふつう”をあつらえます」というユニークなコンセプトが話題を呼び、連日賑わっている。

一番の特徴は「あつらえ」という注文システム。お店が用意するメニューは日替わり1種類のみで、その他のおかずは、お客自身が、その日の食材を見てその日の気持ちにあった食べたいものをリクエストできる。



未来食堂

東京都千代田区一ツ橋2-6-2
日本教育会館B1
TEL 03-3239-3900
火~土 11:00-22:00
(火曜は14:00迄) 日祝定休

他にも、お店の手伝いを50分すると1食がサービスされる「まかない」システムなど、お店とお客が一体となった、従来の飲食店の常識を覆す仕組みが盛りだくさんだ。

TERRACE SQUARE
PHOTO EXHIBITION Vol.1

Event Date:

2015/11/24 TUE -
2016/02/19 FRI

高橋マナミ「THE STREET WITH NO NAME」

期間:2015/11/24(火)~2016/2/19(金)

時間:8:00-20:00 ※土・日・祝、12/30~1/3は休館

会場:テラススクエア 1F エントランスロビー

次回予定:Vol.2の開催は3月上旬~5月中旬、トークイベント&レセプションは3/18(金)19:00を予定
※写真家は未定

神田錦町の複合ビル テラススクエアで、現代写真をテーマにした新たな写真展が始動した。「51% (五割一分)」のディレクター三浦哲生氏、「森岡書店」の店主 森岡督行氏、エディターの加藤孝司氏の3名が参画し、一人の写真家の作品にフィーチャーした展示を年3~4回開催。第1回は、ホンマタカシに師事した高橋マナミが写真展を行っている。写真家本人によるトークイベントも実施し、作品に込められた思いや活動内容に関して詳しく聞くことができる。

三浦氏は「写真を“体感”してもらうことを大切にしたい。そして神保町エリアにある企業と写真家をつなぐクリエイティブなプラットフォームにしていければ」と語る。

COFFEE COLLECTION
around KANDA NISHIKI-CHO

EVENT REPORT



昨年10/31にテラススクエアで、神田錦町で初となるコーヒーイベントが開催された。「本物」にこだわる世界のコーヒーの名店7店舗が集結し、それぞれ自信の豆を使ったハンドドリップコーヒーを提供した。会場は東京中から集まった約2500名のコーヒーファンで大賑わい、どのブースも行列が絶えない盛況ぶりとなった。飲み比べセットも登場し、参加者は各パリスタのこだわりの味の違いを堪能、コーヒーの奥深さを楽しんでいた。



大好評につき第2回の開催も決定。
今回は4/23(土)、24(日)を予定している。

WEB: coffeecollection.tokyo



-  **WORKER ISSUE**
WORKER特集でご紹介した場所
-  **A Day with Art / 錦町さんぽ**
本誌連載にてご紹介したお店
-  **Event / New Venue**
神田錦町界隈のイベント/新店舗

gooddays

グッドデイズ 2016.01.20 発行 / 発行・編集：グッドモーニングズ株式会社 水戸校 www.goodmornings.co.jp



JAN 10

撮影協力：株式会社アンビズム

